

令和7年度「社会貢献促進セミナー」の紹介

Social Contribution Facilitation Seminar

群馬大学大学院医学系研究科医科学専攻では、大学院生の必修科目として「社会貢献促進セミナー」を行っています。平成16年から始まった取り組みで、社会課題や地域のニーズをふまえて大学院生自身が立案したプログラム、あるいは群馬県や前橋市保健所からご提案頂いたプログラムを実践し、社会貢献への理解促進およびコミュニティの一員として社会貢献を積極的に実践できる医学研究者の育成を行っています。今年度は7のプログラムを38名の大学院生が実践しましたので、その内容をご紹介します。

No	プログラム名	人数	プログラム内容
1	群馬大学重粒子線がん治療施設見学会	8	群馬大学重粒子線治療15周年記念イベントで、午前の施設見学会にスタッフとして参加し、見学者の誘導と安全確保を担当した。午後は一般向け講演を聴講し、重粒子線治療の歴史や研究の現状について学んだ。高度医療を市民に開く取り組みに貢献する機会となった。 
2	シンポジウム、講演、教室など	11	(担当者1名からの報告)11月29日に三井記念病院で「見逃していませんか？ 心臓が出す4つのSOS」と題した市民公開講座を企画・開催した。合計38名の患者、その家族、近隣の市民、院内スタッフが参加し、4人の循環器専門医が心不全、心臓弁膜症、狭心症、不整脈について最新知見を紹介した。むくみや息切れ、胸痛、動悸などの症状を見逃さず、早期受診の重要性を強調した。地域住民の健康増進を目的とした講座で、参加者は熱心に耳を傾けた。 
3	第107回全国高等学校野球選手権(群馬大会メディカルスタッフ)	2	第107回全国高校野球選手権群馬県大会にメディカルスタッフとして参加し、選手や応援団の怪我・熱中症への対応を行った。看護師・理学療法士と連携し、試合中の負傷評価、応急処置、試合後のメディカルチェックを担当し、高校球児の安全と大会運営を支えた。 

4	小中学生のための 医学研究者・医 師・看護師体験教 室 / 群馬ちびっこ 大学	7	<p>(担当者 1 名からの報告)小中学生向け医学体験教室で、外科医師体験を担当した。上部消化管内視鏡モデルや超音波検査モデルを用いて診断の流れを説明し、実際の医療機器に触れる体験を提供した。参加者は真剣に取り組み、医師の仕事への理解と興味を深める機会となった。</p>	
5	医師の仕事の紹介(高校生のための医学セミナー / 県内の小学校 6 年生を対象に「生き方講座」)	3	<p>(担当者 2 名からの報告)①2025 年 10 月 29 日、前橋女子高校にて医学科志望の高校生約 30 名を対象に医科学セミナーを実施した。医師の仕事や小児がん診療、研究内容を紹介し、進路や勉強方法の相談にも対応した。生徒からは積極的な質問があり、医師の使命やキャリア形成について理解を深める機会となった。</p> <p>② 県内の小学校 6 年生を対象に「生き方講座」を実施し、医師(麻酔科医)としての仕事内容や職場の様子、自身の進路選択の経緯を紹介した。チーム医療の現場を例に、仲間と協力することや責任をもって判断することの大切さを伝えた。児童からは多くの質問があり、医師を目指す子どもだけでなく、他の進路を考える児童にも働くことの意義を考える契機となった。自身にとっても仕事の意義を再確認する貴重な機会となった。</p>	 
6	「やさしい日本語」 講座	5	2025 年 10 月 10 日、群馬県主催の「やさしい日本語」講座に国際サポーターとして参加し、日本人医学生の外国人対応力向上を支援した。講義後のロールプレイでは外国語での会話困難を体験させ、語彙の簡略化や伝え方の工夫について助言した。医療現場における多文化コミュニケーション理解を深める有意義な機会となった。	
7	群馬大学医学部 医学科オープンキ ャンパス	2	<p>(担当者 1 名からの報告)高校生を対象に超音波検査体験ブースを主催した。超音波の基礎原理、プローブの種類、安全性、臨床での使用例についてレクチャーを行い、その後、腹部臓器、腕の血管、筋、靭帯などのリアルタイム描出を実際に体験してもらった。医療への関心を高め、将来の医療従事者育成に寄与することを目的として実施した。</p>	